

校内研究構想

東白川小学校

【児童の実態】

○素直で、意欲的に学ぶ児童が多い。

△論理的構成や表現が苦手
で、深い学びまで到達し
れない実態がある。

△自ら追究する力が弱く、失
敗を恐れ自己肯定感が不足
する児童が多い。

△学力の二極化や意欲低下が
見られ、個に応じた支援が
必要な実態がある。

【学校の教育目標】

せいいっぱい きたえ
のびよう 東っ子

【目指す学校像】

自分を出し切り「笑顔いっぱい
の学校」

【合い言葉】

「出し切る」「見つめる」子ど
もたちが安心して自分をのびのび
と出し切り自分に自信をもち可能
性をのばす

自己充実感 自己肯定感 自己有用感

【東白川村教育目標】

村を愛し、よりよい生涯と
社会を築くために、心豊かに
たくましく生きる人間性の育
成

【教育方針】

○活動の基本方針

ポストコロナ時代における
新たな生活様式を取り入れた
教育活動の推進

しっかり学び、しっかり育
つ元気な小中学校教育の推進

【研究主題】

自ら問い、考えを深め、共に高め合う児童の育成

～個別最適な学びと協働的な学びの往復を支える「見取り」と「つなぎ」の工夫～

【研究仮説】

一人一人の興味や習熟に応じた「個別最適な学び」を保障し、多様な考えを共有し合う「協働的な学び」を一体的に仕組み、教師が適切に「評価・見取り」を行えば、児童の思考力・表現力が高まり、主体的に学ぶ姿が見られるようになるであろう。

【学校の実態と課題】

【児童の実態】

- ・思考力、表現力に課題がある
- ・自己肯定感を高めたい

【指導の課題】

- ・深い学びへのつなげ方
- ・個別最適な学びへの対応
- ・評価と見取りの難しさ

→

【研究内容】

【①個別最適な学び】

- ・学習内容や場所の自己選択
- ・ICTを活用した自分なりの表現

【②協働的な学び】

- ・少人数を活かした質の高い対話
- ・自分の考えと他者の比較

【③研究推進の工夫】

- ・学年部研究の回数増加
- ・他学年・他教科とのつながり
- ・「私ならこうする」を語る協議会

→

【目指す児童の姿】

【思考・判断・表現】

- ・自分の考えを持ち、友達との対話で考えを深める子

【主体性・自己肯定感】

- ・自ら学び方を選び、達成感を持つ子

【学びに向かう力】

- ・自分や友達の良さに気づき、学びを広げる子

【研究の流れと検証】

- ・検証の視点： 児童アンケート（思考の変容）、授業観察（見取りの記録）、全研・学年部研と協議会
- ・年間計画の工夫： 全校研を精選し、日常授業と直結した学年部研を主軸に置く